

# 令和3年度 上郷地区・末野原地区 わくわく事業 活動報告書

令和4年3月作成

## ○「わくわく事業」とは

地域の団体や市民活動団体などが実施する、住みやすい地域づくりのために取り組む事業に対し、補助金を交付する仕組みです。

この「わくわく事業 活動報告書」は、令和3年度に活動した上郷地区8団体、末野原地区6団体の2月時点の活動報告をまとめたものです。ぜひ、活動を知っていただき、地域ぐるみで応援をお願いします。

## ○ 活動団体

	団 体 名	ページ
上郷地区	緑野の会	1
上郷地区	せせらぎ遊歩道愛護会	3
上郷地区	高嶺まちづくりの会	5
上郷地区	畝部まちづくりの会	7
上郷地区	家下川リバーキーパーズ	9
上郷地区	上和会花くらぶ	11
上郷地区	川田まちづくり	13
上郷地区	キッズプランナー	15
末野原地区	竹の会	17
末野原地区	元気の出る森づくりの会	19
末野原地区	豊栄町一区木遣り保存会	21
末野原地区	渡刈町サポート会	23
末野原地区	永覚新町お助け隊	25
末野原地区	おしかも ほたるの会	27

## 令和3年度 わくわく事業活動報告

団体名 緑野の会	
事業名 ①三河上郷駅前広場美化事業並びに②うねべ里山事業	
会員数 22名	主要な活動場所 三河上郷駅前広場・うねべ里山
事業費(補助額) 180,001円 (162,000円)	
【主な使途】①花苗代金1,400p(総額の62%)、肥料(8%)、②刈払機用替刃・混合油(8%)、その他共用(茶、ごみ袋、事務用品、ボランティア保険)22%	
<b>事業目的</b> 「豊かな自然環境が心豊かな人を育てる」を基調に、地域の環境保全に勤める。この活動を通して会員の生き甲斐作りを目指すと共に地域社会に貢献する。	
<b>主な活動</b> ① <三河上郷駅前広場美化事業> 平成14年度から継続20年間。 <u>基本的活動</u> ・年2回(5/22、10/15)花苗植え付け作業 合計1,400p ・毎月第3金曜日AM7:00～除草作業(年12回 延べ180人) ・12/17定期作業で南エリアの花壇枠補修作業 ※12月～2月は8:00～ ② <うねべ里山事業> 平成18年度～継続16年間。(年8回 延べ112人) <u>基本的活動</u> ・冬季10月、12月、1月、3月を除き、毎月第1水曜日AM7:00～(1時間～3時間)下草刈り、竹林整備、枯れ枝収集作業、遊歩道の保全作業、用水土手の除草作業。※2月のみ8:00～ ・6月、9月に全廃棄物撤去作業。 ・特別活動「用水架橋作業」古瀬間御嶽山赤松伐採6/9、搬出10/24、架橋作業11/28	
<b>活動の成果</b> ① <三河上郷駅前広場美化事業> 土郷地区の顔である駅前広場の花壇造成を行い、20年間市民に癒しの空間を造成して提供してきた。この活動を通して、駅の利用者や市民にたいして、美化意識の向上とボランティア活動への理解度を深めることに役立てたと感じる。また、当会が広場の冬季の安心安全を目的に始めた電飾事業は別に実行委員会を設立して事業を継承した。上郷地域の冬の風物詩として今年度16回を迎え好評である。事業費全額を地域の寄付金で賄い8年を経過した。なお、地元の要望に応じて、今年度は設置期間を1ヶ月延長。 ② <うねべ里山事業> 隣接する柳川瀬公園との一体感が生まれ、多くのウォーキング愛好者からも喜ばれている。自然林らしい落ち着きと四季を感じさせる好ましい里山になった。今後も、里山の貴重な樹木の保全活動と地域の方々に安心して散策いただける遊歩道の保全整備を心がける。用水に新規架橋。	
<b>課題</b> 一番は会員数の維持である。振り返ると会が20年続けられたことが不思議に思える。R3年度も会員の高齢化による本人や配偶者の病気が理由で退会者がでたが、新規会員2名を補充できた。会員募集の壁のひとつに定年延長がある。定年後地域の役職を終えると70才半ばを過ぎ、既に健康問題が生じる。昨年度入会した若手会員を軸に逐次後輩を勧誘して会員数の維持を図りたい。乞うご入会！	
<b>今後の取組</b> 永年やっている、ボランティア活動が生活のリズムに組み込まれ、仕事の内容にも精通しているので余り負担に感じられなくなる。20年間継続できたことを誇りとしてしっかり取り組む。この活動が健康長寿の秘訣だと囁かれる。	



# 緑野の会（環境保全ボランティアグループ）活動紹介

## 令和3年度 三河上郷駅前広場美化事業の活動記録



9/17 夏～秋花壇古花撤去・耕起



12/17 定期管理作業事例



10/15 冬～春花苗植え付け作業



12/17 老朽花壇撤取替え作業

## 令和3年度 うねべ里山事業の活動記録



6/5 定期保全作業事例



6/2 定期保全作業・廃棄物撤出活動事例



用水架橋作業の情景

6/9 赤松丸太伐採（古瀬間）

10/24 赤松丸太搬出作業

11/28 架橋作業

《問い合わせ》 川上 博 0565-21-1483



## わくわく事業活動報告

団体名      せせらぎ遊歩道愛護会	
事業名      新矢作緑道環境美化事業	
会員数      38名	主な活動場所      新矢作緑道（畝部西町智内）
事業費(補助額)   89,761円    ( 80,000円)	
【主な使途】 除草剤、花の苗、肥料、剪定道具、保険料、看板	
<b>事業目的</b> <p>豊田市が行う管理作業のみでは行き届かない、新矢作緑道の除草、低木の剪定、せせらぎの清掃及び花壇の維持管理を行い、緑を守り育てることにより都市景観の向上を目指すとともに、地域住民の良好な居住環境を維持し、散策・ウォーキングなどの身近なレクリエーションの場を提供することで、より良い地域づくりに貢献する。</p>	
<b>主な活動内容</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 緑道の除草、せせらぎの排水口の清掃</li> <li>・ 花や植栽による環境美化</li> <li>・ 交通安全に配慮した道路環境の整備</li> </ul>	
<b>活動の成果</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境美化及び保全を目的とした活動をすることにより、地域住民の環境保全に対する意識の向上を図ることができた。</li> <li>・ 良好な住環境の構築が図られ、地域への関心及び愛着が高まり、より良いまちづくりへの関心を高めることができた。</li> <li>・ 環境美化・景観保全活動によって、地域住民の交流が図られるとともに、とりわけ高齢者の地域への参加・貢献意識が醸成された。</li> </ul>	
<b>課題</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナの影響もあり計画していた行事が中止になったことや、人数制限により役員のみでの実施もあり事業は計画通りに進めることが出来なかったが、今年度も住環境、景観保全維持に努め自治区とも連携し活動を行い、組編成をして役割分担し個人負担の軽減を図る活動計画を立て実施したが、自治区内の他の行事とも重なり調整に苦慮した。</li> <li>・ 会員も高齢化し脱会者も増えつつある状況なので、募集はしているがなかなか応募がない。</li> </ul>	
<b>今後の取組</b> <p>これまで築き上げてきた景観と環境保全の維持・向上を図るため、また高齢者の生きがいや交流の場として継続的に活動していきたい。</p>	



## 活動の様子

春の樹木剪定



花の植替え（春）



低木の剪定



遊歩道の清掃



花の植替え（秋）



花壇の手入れ（女性部）



活動メンバー





## わくわく事業活動報告

団体名	高嶺まちづくりの会		
事業名	たかねふるさとまつり		
会員数	10名	主な活動場所	高嶺地区
事業費(補助額)	348,310円 (313,000円)		
【主な使途】 子どもたちによる米作り、高嶺ルビーの花観賞			
<b>事業目的</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の名産（梨、味噌など）を知り、米作りを通して子どもたちとのふれあいの場をつくる ※ 高嶺ルビーの栽培と観賞の場の紹介</li> <li>・ 地域のつながりが希薄になる中、三世代が集える「ふれあいと安心安全の場づくりを」まつりを通じて繋ぐ</li> <li>・ 地域と地元企業との連携によるまちづくりの推進</li> </ul>			
<b>主な活動内容</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 米作り体験 = 子どもたちの手による「田植え」「稲刈り」「収穫」をさせる。 ※ 収穫したもち米を餅にして喜びと楽しみを味わう</li> <li>・ 名産「福受の梨」を中心に、地元の果物や野菜を知る機会を与える。</li> <li>・ 「高嶺ルビー」（赤いそばの花）の栽培と観賞</li> </ul>			
<b>活動の成果</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ そばの花「高嶺ルビー」の栽培地を2ヶ所にし、観賞のPRを回覧した。 昨年より広く、多くの種をまくことができ、見事に赤い花が咲いた。多くの方がカメラ撮影や鑑賞に訪れていただいた。来年は自分も栽培したいので、種を欲しいという方の声が多く聞こえてきた。</li> <li>・ 子どもたちの米作り体験活動はコロナ禍では「田植え」は見学のみ、「稲刈り」は手刈りの体験を一部のみ行うこととし、収穫はコンバインで行う。「ふるさとまつり」で振舞う餅のもとになる予定も、まつりは中止と決した。</li> <li>・ 収穫したもち米は、餅にして今年も子どもたちに配ることにした。</li> </ul>			
<b>課題</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ふるさとまつりは地域の人々にとっては、みんなが集って楽しむ場所・機会となりふれあい・安心安全を願うまつりにしたい。（コロナの終息を願うのみ）</li> <li>・ そばの花の栽培は、地域で観賞を楽しみにしている方が増えて、自分たちも花を咲かせたいと種を欲しがることが増えてきたので、種を取って皆に配布出来るようにしたい。花を見せるだけでなく、種が収穫できるように気温や土地の管理も会員で行えるようにしたい。</li> </ul>			
<b>今後の取組</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「高嶺ルビー」を栽培し、花を咲かせ、もっと地域の人に知ってもらうためのPRと収穫できた種を配布し、地域の人と一緒に「赤いそばの花」を咲かせたい。</li> <li>・ 子どもたちに「米作り体験」をさせ、収穫したもち米を利用した「ふれあいまつり」を地域の人たちと実現させ、喜びと楽しさを味わいたい。</li> </ul>			



## 活動の様子

(子どもの体験活動 と 地域から喜ばれた赤いそばの花観賞)



高嶺まちづくりの会



高嶺まちづくりの会



## わくわく事業活動報告

団体名	畝部まちづくりの会		
事業名	畝部まちづくりの事業		
会員数	43名	主な活動場所	畝部地域内
事業費（補助額）	188,436円（169,000円）		
「主な用途」	草刈り機、広報誌作成、ふれあいマレットゴルフ大会		
事業目的			
①安全で安心な町づくりを推進する。			
②疎遠になりがちな地域の人々の交流の場を設ける。			
③高齢化に対応する事業を推進する。			
主な活動内容			
・ 上郷中学校の通学路の美化活動及び県道の不法投棄物回収。			
・ 上郷中学校通学路の安全点検を行う。（要望書の作成。区長会と共に）			
・ 水害に対応するための研修会の開催（3月下旬予定）			
・ ふれあいマレットゴルフ大会を開催する。			
活動の成果			
・ 上中通学路の内、自治区の環境整備以外の通学路の整備ができた。			
・ 水害に対する認識が高まるとともに、災害退避行動の重要性が認識された。			
・ マレットゴルフ大会により、地域住民の絆が増進された。			
課題			
・ 新型コロナウイルス対策のため、一部事業の中止や規模を縮小することになった。このまま続くと今後の事業が危惧される。			
・ 新規事業内容につき検討する必要がある。			
今後の取り組み			
・ 地域住民が喜んで頂けるような事業を展開したい。また、まちづくり会員が楽しんで活動できる事業を展開していきたい。			



## 活動の様子



## 上中通学路の整備



## 上中通学路の安全点検



要望書提出  
(11月2日)

## ふれあいマレットゴルフ大会



## 研修会の開催（柳川瀬排水機場）



既設の排水機



新設の排水機

## 県道239号線美化活動



## わくわく事業活動報告

団体名 家下川リバーキーパーズ	
事業名 地域の川で遊ぼう、生き物のすむ川を作ろう	
会員数 8 名	主な活動場所
事業費(補助額) 49,400 円 ( 44,000 円)	
【主な使途】草刈り機替刃、燃料、川砂 ほか	
<b>事業目的</b> ①生物の生息に適した具体的な川作りの方法を、河川管理者や関係機関と協働し家下川流域の豊かな環境を次世代に繋げる。 ②親子を対象とした川遊びイベントを通し、自然と親しみ「ふるさと意識」の芽を育てることで地域の自然の魅力を発信する。 ③生物調査やアシの刈取りを定期的に実施し、水辺の環境状態を正しく把握し関係機関と共有することで課題解決を図る。	
<b>主な活動内容</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家下川、矢作川の川遊び場での草刈り作業</li> <li>・家下川・矢作川での川遊びイベントの開催</li> <li>・西大排水路での魚の生息場所整備活動</li> </ul>	
<b>活動の成果</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・川遊びイベントの開催を通して、地域の自然の魅力を伝えることができた。</li> <li>・堤防の草刈り、ヨシの刈取り作業を行うことで地域の子供たちが安全に川遊びを行える場所を維持することができた。</li> <li>・西大排水路2カ所に、水位確保堰と砂底を造成し、魚類の生息場所の整備を行った。設置後すぐに魚類の移動に利用されていることが確認できた。</li> </ul>	
<b>課題</b> <p>コロナウィルス感染症の影響で予定していた畝部小学校の土曜学級授業を中止することとなった。今後も感染状況の動向が読めないことから、開催方法や対策などを学校と相談しながら次年度の計画を立案していきたい。</p>	
<b>今後の取組</b> <p>次年度は COP10 開催時に整備した中大排水路の魚道の修復を予定している。過去に整備を行い生物の生息環境の保全に効果のあった造成場所についても経年劣化や見直しが必要な部分もあることから、今後も関係機関と連携しながら整備を進めていく。また、引き続き地域の学校や子育て支援施設とともに、上郷地区の豊かな水辺環境を体験できる機会を設けながら子供たちのふるさと意識の育成を図っていきたい。</p>	



## 活動の様子

### ◇川遊びイベント（矢作川たんけん隊）



### ◇川遊び場の整備作業

- ・ヨシの刈取り
- ・堤防の草刈り作業



### ◇西大排水路での整備作業

- ・水位確保堰、砂底工リアの造成



## わくわく事業活動報告

団体名		上和会 花くらぶ
事業名		上和会上屋敷交差点環境美化事業
会員数	20名	主な活動場所 上和会上屋敷交差点角の空き地
事業費(補助額)		51,950円 (46,000円)
【主な使途】		培養土、肥料、消毒薬、除草剤等
<b>事業目的</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 道路整備された上屋敷交差点の一角を花で飾り、景観を良くする。</li> <li>2. 四季を通じて花壇の管理をすることにより、地域住民との交流を深める。</li> <li>3. 地域住民や交差点を通るドライバーの心を和ませる。</li> </ol>		
<b>主な活動内容</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 夏の花の種まきから育苗。(4月～5月)</li> <li>2. 春の花を抜いて土作り、そして夏の花の植付け。(5月～6月)</li> <li>3. 秋から春の花の、種まきから育苗。(9月～10月)</li> <li>4. 夏の花を抜いて土作り、そして秋から春の花の苗の植付け。(10月～11月)</li> <li>5. 一年を通じて、毎日花の手入れと水やり。</li> <li>6. 一年を通じて、敷地に植えてある花木の手入れ。敷地の草取り。</li> </ol>		
<b>活動の成果</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 和会町上屋敷交差点の一角を、ほぼ年間を通して花壇の花で飾ることができた。</li> <li>・ 交差点を通るドライバーや歩行者に癒しを感じて頂けたと思う。</li> </ul>		
<b>課題</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夏の猛暑に対応した花の管理が難しい。</li> <li>・ 種から発芽させるための水と温度管理が難しく、失敗が多い。</li> </ul>		
<b>今後の取組</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 補助額を減らす為、花の苗の購入ではなく種蒔きから苗を作る方法を今後も続ける。</li> <li>・ 豊田市民花壇コンテストで入賞をする。</li> </ul>		



## 活動の様子



【4月10日 春の花の手入れ】



【4月24日 夏の花の種まき】



【4月10日 夏の花の植付け直後】



【9月10日 夏の交差点の花壇】



【10月10日 春の花の移植】  
【セルトレイから3号ポットへ】



【11月14日 春の花の植付け】

## 令和3年度 わくわく事業活動報告

団体名 川田まちづくり	
事業名 柳川瀬緑道美化事業	
会員数 20 名	主な活動場所 柳川瀬緑道歩道周囲
事業費(補助額) 494,487 円 ( 445,000 円)	
【主な使途】 ・培養土・肥料・花苗・防草シート・固まる土等の購入	
<b>事業目的</b> ・柳川瀬緑道の美化を向上させて  潤いのある安全で安心なまちづくり。	
<b>主な活動内容</b> ・緑道周囲の草刈・除草（草を生やさない活動）  ・季節の花植栽管理 （基本 2回/年）  ・歩道の清掃・せせらぎ除草 （ 1回/月）  ・草が生えない対策（固まる土・防草シート施工）	
<b>活動の成果</b> ・緑道周囲が綺麗になることで歩行者の方でゴミ・吸い殻のポイ捨てが少なくなりました・  ・花を育てることで高齢者の方も生きがいを感じて下さっています。	
<b>課題</b> ・現役世代の人は（共働き）花壇の世話が出来ない。 ・犬と一緒に散歩される方が増え、糞を持ち帰らない方もあり苦慮しています。	
<b>今後の取組</b> ・花壇の世話・草刈作業を継承頂ける人の発掘。  ・草刈作業の軽減対応	



## 『川田まちづくり』活動の様子

活動範囲



個人・グループによる花壇整備



植栽のため準備作業



歩道周囲の除草作業



芝刈機で効率アップ



ロープ刈は飛散防止で対応



道路沿い除草作業は**危険**のためアゼ板で区画して道路側での作業をなくした。(5.0m)



施工作業中



作業完了

## わくわく事業活動報告

団体名      キッズプランナー	
事業名      みんなであそぼう！たのしもう！（みんなで子育て事業）	
会員数      １７名	主な活動場所   上郷交流館・畝部小学校・柳川瀬子どもつどいの広場
事業費(補助額)    218,000 円    ( 196,000 円)	
【主な使途】・親子遊びイベント、親支援講座、小学生居場所づくり講座等報償費 ・行事保険等保険料      ・チラシ用コピー用紙等消耗品費	
事業目的    事業目的      「子どもの健全育成を図る」 ①子育て親子の交流の場の提供及び交流の促進 ②地域を巻き込み、つながりを持ちながら子育てできる環境づくりや世代間交流の促進（地域のつながり・子育て力の強化） ③同じ境遇の子育て親子の育児ストレスや不安を解消できる環境づくり（親支援） ④家に閉じこもりがちな子育て親子の呼び込み ⑤園児・小学生の講座開催や居場所づくりによる健全育成	
主な活動内容 ・親子イベントの開催（人形劇・コンサート・親子遊びの会など） ・親支援事業 ・園児・小学生の講座開催による子どもの健全育成 ・地域とつながり、世代間交流会の開催（地域の居場所づくり） ・ボランティアの育成	
活動の成果 ・親子イベントは、毎月定期的に開催することにより、コロナ禍でありながらも、毎月２０組以上の参加があった。地域の同世代の親子がふれあえる場のニーズを感じた。 ・親支援では、同じ立場の親子が集まることにより、情報や悩みの共有ができ、専門的な知識の習得や少人数開催もあって、前向きな育児や親同士・子ども同士のふれあいにつながった。 ・小学生の居場所づくりでは、地元の小学校が会場ということへの安心感もあり、１年生から６年生まで幅広い参加があった。縦の関係性も生まれ、子ども同士で協力する姿も見られた。 ・心配な親子を、社会福祉協議会上郷出張所に繋ぎ、情報共有することができた。	
課題 ・今後も続くと思われるコロナ禍の中で、親子の孤立の防止や、育児ストレスの解消を図れる活動を工夫し行うこと（つながり方、コミュニケーションの取り方など）の必要性。 ・コロナ禍での子どもの活動の場所の減少や体力低下など、地域課題解消への取組 ・コロナ感染防止に努め、無理をせず、少しでも安心して参加できる場所づくりを考えていきたい。	
今後の取組 ・子どもの健全育成と共に、親支援にも力を入れ、コロナ禍での親子の孤立や子育ての不安の解消となるような活動の強化。 ・園児・小学生の講座開催による健全育成や地域とつながり、世代間交流会の会の開催の工夫（地域で子どもたちを見守る場所づくり、環境づくり）。 ・地域への情報発信の方法、地元との繋ぎの工夫。	



## 活動の様子



### 親子向けイベントの開催 @上郷交流館

令和3年 4月9日 5月14日 6月11日 8月20日 10月8日  
12月10日 令和4年 1月14日



### 親支援 @柳川瀬子どもつどいの広場

令和3年 4月8日 5月11日 5月13日 6月10日 7月8日 8月12日  
10月14日 11月11日 12月9日 令和4年 1月13日 2月10日



### 小学生・地域の居場所づくり @畝部小学校

令和3年 6月19日 6月26日 7月17日 10月30日 11月13日  
12月11日

# わ く わ く 事 業 活 動 報 告

団体名		竹 の 会	
事業名		地 域 竹 や ぶ の 環 境 整 備	
会員数	40名	主な活動場所	豊田市鴛鴨町 地内 馬場川沿い
事業費(補助額)		202,800円 (172,000円)	
【主な使途】発電機(電気工具、丸ノコ電源)、燃料(草刈機、軽トラ)、竹切ノコ替刃、お茶代など			
事業目的			
①地域竹やぶの環境整備で生活環境の改善、景観づくり、自然環境保全の意識向上に貢献。			
②会員の余暇の利用による健康保持及び地域の人達とのふれあいと子ども達への支援交流。			
③竹炭、竹酸酢、竹細工、枯れ竹と間伐竹の焼却処分時に竹炭にして土壌改良用として使用。			
④竹やぶ内の不法投棄処理による清潔な環境づくり、不法投棄撲滅に向けた活動。			
主な活動内容			
①竹の間伐、竹炭づくり、草刈、畑土壌改良用竹炭づくり、会員親睦ミニ門松づくり。			
②小学校のビオトープ整備と稲干しのハザ掛けづくり、こども園、小学校へのセタの竹提供。			
③間伐(タケノコ状態での対応)、不法投棄清掃処分(3回)			
※恒例のこども園の竹馬づくりはコロナで中止になった、自治区総会記念品の竹炭は実施予定。			
活動の成果			
①4月～6月にかけて作業性向上のため整備済の土手に生えるタケノコ細い竹を鎌、草刈機で 毎回実施、竹林内のタケノコ間伐細い若竹は刈倒して作業効率を上げた			
②竹やぶへの不法投棄の減少(座椅子2ヶ、布類ビニール袋に入った物3袋)			
③コロナ過のなかでの活動も用水路、通学路などの整備で地域貢献が出来た			
課題			
①間伐、草刈りの維持管理が今後の大半の作業になるが、新規会員になる人がなく、 現会員も高齢化しているので続けて行けるかが最大課題			
②新規会員の獲得困難(自治区総会での声かけも実績なし)			
③不法投棄激減したが、まだ一部の人が投棄している。(同一人物と思われる?)			
今後の取り組み			
①間伐と草刈に重点を置き更なる環境を進め、地域の安全、安心、憩いの場を目指す。			
②新規会員の募集を自治区だよりに掲載の依頼と現会員による声かけの実施。			
③会員による地域活動、こども園、小学校行事への参加。			



# 竹の会 (2021年度 活動内容)

わくわく事業 結果報告 2022.1.20

## ①竹やぶ整備

車道・農道、通学路周辺の整備 (不要の若竹間伐、雑草処理 他)



## ①竹やぶ整備

農業用水周辺の整備 (竹の間伐・草刈り)

(地域委員の作業観察会 2回)



## ②-1 竹の活用

子ども園の竹馬づくりのお手伝い (コロナ禍で中止となった)

## ②-2 竹の活用

枯れ竹、不要な竹の運搬焼却

焼却後の竹炭、畑土壌改良用に活用



## ②-3 竹の活用

ミニ門松づくり

ミニ門松完成!



## ②-4 竹の活用

竹炭づくり(総会で参加者に配布)

## ③ 竹やぶ内の不法投棄清掃処分 (2回)





## わくわく事業活動報告

<b>団体名</b> 元気の出る森づくりの会	
<b>事業名</b> “空き地を活用し、コミュニティの場所と自然に囲まれた散策道づくり” 事業	
<b>会員数</b> 32名	<b>主な活動場所</b> 鷺鴨町上高根地域
<b>事業費(補助額)</b> 544,362 円 (489,000円) <b>【主な使途】</b> 手摺り材料、エマファルト(アスファルト補修材)、コンクリート、肥料、樹木苗木、花苗、保険料、燃料、飲料水など	
<b>事業目的</b> ▲高根地区に子どもが遊べる広場、地域の皆さんが集えるコミュニティの場所づくりに向け、環境整備を推進する ▲土地の広さ・形状・自然を生かした健康づくりの散策道を地域の人達でつくる ▲環境整備と併せて樹木苗木(モミジ・さるすべり等)花苗を植え付け、景観を楽しむ安らぎの場所にする	
<b>主な活動内容</b> ▲広さ5,200㎡のうっそうとした、雑木林を整備する ▲散策道の整備・エマファルトを敷き足元を安定化する ▲散策道に手摺りの設置・子ども、お年寄りも安全に歩けるようにする ▲花苗などを植え付け、景観を向上させて楽しみながら散策できるようにする	
<b>活動の成果</b> ①活動を通してボランティアメンバー相互のコミュニケーションが向上できた ②子ども・お年寄りも自由に安全に散策できる環境整備を推進できた ③近隣の子供達も広場で遊ぶ光景や、散歩する人が増えてきた	
<b>課題</b> ▲32名のボランティアメンバーの平均年齢76歳以上(80歳以上7名)と高齢であり、体力的に無理がきかない。又今後も環境を維持管理するためにも、後進の育成が直近の重要課題です ▲ボランティアメンバーの輪がなかなか広がらない	
<b>今後の取組(活動内容)</b> 1、強雨のときに土砂が流れ市道・民家に影響を及ぼす個所の、土留め工事実施(工事請負費活用)と、その後の整備 2、環境・景観の維持管理・樹木の剪定、草刈り、草花の肥料・水やりなど 3、花壇の整備・拡張と花苗の植え付けなど	



## 活動の様子

### 手摺りの設置作業

穴あけ→手摺り材埋め→コンクリート固定



### 散策道周辺に手摺り設置

2年越しで100%完成



### 花壇の手入れ



### 手入れ後の花壇



夏を迎える  
咲いた花々

冬に向けての  
花苗植栽



### 花壇の拡充



### 芝桜花壇はチョットした名所です



「元気の出る森づくりの会」メンバー



憩いの場 東屋周辺



わくわく事業活動報告

団体名 豊栄町一区木遣り保存会	
事業名 木遣り唄の習得・保存広報活動を通じて地域の連携を強化する事業	
会員数 27名	主な活動場所 豊栄町一区内
事業費(補助額) 311,125円 (280,000円) 【主な使途】新会員用衣装代、消耗品費、講師謝礼、印刷製本費、区民会館使用料、御茶代	
<p>事業目的</p> <p>「日本の伝統文化である木遣り（唄と神輿）を習得」し自治区の行事（イベント）や秋の大祭時にこども神輿と連動して子供たちの思い出づくりと区民の郷土愛を深め、次世代の継承を果たして自治区の更なる活性化に繋げる。</p>	
<p>主な活動内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 会員の増加（女性会員数名）</li> <li>2. 曲目数の増加（テープ、CD等を個人に配布して練習の教材にした）</li> <li>3. 歌唱力の向上</li> <li>4. 子供用棟木運搬車の作製</li> </ol>	
<p>活動の成果</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 会員数初年度11名→27名、次年度現在5名確定【若い会員（40～60歳）2名】</li> <li>2. 4曲→8曲に増加した（コロナ禍で練習回数が少ない中、個人の自主練習が増加に繋がった）</li> <li>3. 歌唱力指導として、堤木遣り保存会の練習に2回出向いて向上が図れた（8月3日、17日）</li> <li>4. 子供用棟木運搬車を作製した</li> </ol>	
<p>課題</p> <p>保存会の維持永続のために発生する費用をどう賄うか。コロナ禍での練習方法の在り方と会員の若返り化を見据えて若い会員（40～60歳）5～6人の増員に努める</p>	
<p>今後の取組</p> <p>新型コロナの影響でなかなかお披露目が出来ないが、全員が歌えるように基礎づくりをして、次年度の披露に最高のパフォーマンスが出来るように、感染防止策を講じて準備を進める。</p>	



## 豊栄町一区木遣り保存会活動の様子



平針木遣り愛好会の皆さんとの交流会  
歴史や、木遣りの原点を教わりました  
6月11日



7月コロナ禍での練習風景  
マスク越しに大きな声で



堤町木遣り保存会に出向いて合同練習2回実施（8月3日、17日19:00～20:00）



子供用棟木運搬車を作製、秋の大祭にて生を入れてもらいました（10月10日）

団体名 渡刈町サポート会	
事業名 環境ふれあいサポート総括事業	
会員数 48名	主な活動場所 渡刈町地内
事業費(補助額) 467,440円(346,000円)	
【主な用途】鳥狩塚の伐採委託費、燃料、肥料、花の種、軍手、作業のお茶 など	
<b>事業目的</b> ①学童通学路付近の草刈り及びゴミ拾いをし、安全、安心、クリーンな登下校通学路とする。 ②ゴミステーション及び花畑(元ゲートボール場)付近の草刈り等により環境美化に努める。 ③子供の自然に触れ合う遊びの場が少なくなったため、「ビオトープ」と花畑付近一帯等を子供たちを始めとした地域の方々の“憩いの場所”として自然環境を保全・創造して次世代に継承する。 ④アルミ缶回収を継続する。 ⑤鳥狩塚の整備作業をする	
<b>主な活動内容</b> ・『エコ堆肥でふれあい花畑』の継続。 ・学童通学路付近、ゴミステーション及び花畑付近の草刈りとゴミ拾いをする。 ・鳥狩塚の整備作業をする。	
<b>活動の成果</b> * 事業実施による地域で課題解決の効果、工夫した点を具体的に ・「クリーンサポート」事業は、年末の渡刈町役員による年末特別美化活動への協力参加まで含めて、19回(1月10日現在)の活動を実施。 ・「エコ堆肥でふれあい花畑」事業は、区民会館北隣の広場を借用して花畑作業(ひまわり、菜の花の種まき)とエコ堆肥作業の実施。 ・平成28年4月より「アルミ缶回収活動」を寿会より継承して、資源回収及び活動資金の調達を兼ねて継続活動中。⇒420kg回収できた。アルミ缶つぶし機の再製作により作業対応は良好であり、資源の有効活用として今後も継続する。 ・鳥狩塚の木の伐採を業者に委託し、1/3程度の雑木林の間伐及びその片付けが完了した。今後は残りの木の伐採及び散策道の整備に取り組む。	
<b>課題</b> * 大変だったことや反省点 ・エコ堆肥でふれあい花畑事業の雑草対策。 ・鳥狩塚の整備に手間がかかり、当初計画を3年で計画するも延長。 ・会員の高齢化により、会員数の伸び悩み。	
<b>今後の取り組み</b> * 今後の活動予定や抱負など ・エコ堆肥でふれあい花畑」を継続する。 ・学童通学路付近、ゴミステーション及び花畑付近の草刈り及びゴミ拾いを継続する。 ・アルミ缶回収を継続する。 ・鳥狩塚整備作業を継続する。⇒雑木林の間伐、散策道の整備、記念碑の設置、花木の育成により「憩いの場」として、整備作業をする。	



## 活動の様子

通学路の草刈り



花畑の草刈り



アルミ缶つぶし



鳥狩塚の整備



鳥狩塚の整備



鳥狩塚での業者による伐採作業



鳥狩塚での業者による伐採作業



鳥狩塚での業者による伐採作業





## わくわく事業活動報告

<b>団体名</b> 永覚新町お助け隊	
<b>事業名</b> 高齢者世帯への支え合い取組事業	
<b>会員数</b> 13名	<b>主な活動場所</b> 永覚新町自治区
<b>事業費(補助額)</b> 99,433円 (89,000円)	
<b>【主な使途】</b> 備品棚、台車BK付、胴ベルト型安全帯、スリム収納ステップなど	
<b>事業目的</b> 高齢者に寄り添い、身の回りで困っている事に対して、お手伝いして支え合いや助け合いができる地域づくりを目指す。(労働力だけでなく、心のケアの支援も) 1. 高齢者夫婦世帯(75歳以上) 2. ひとり暮らし登録の方 3. 身体に障がいのある人 <div style="display: inline-block; vertical-align: middle; margin-left: 10px;">         } 対象者       </div>	
<b>主な活動内容</b> ・自治区内の75歳以上の高齢者夫婦世帯、ひとり暮らし者への御用聞き活動 ・お助け隊への依頼事項に対して、早い対応 ・広報とよた配布時にお助け隊活動の案内回覧とボランティア会員の募集 ・刈草作業と庭木(樹木)剪定作業での安全服装・剪定技能の習得と体験学習 ・すぐ役立つ実践的「傾聴講座」受講、傾聴の基礎を学ぶ	
<b>活動の成果</b> ・新型コロナ緊急事態宣言解除を受けて、お助け隊活動のキックオフ(7/21、11名) ・コロナ禍に対応した会議体見直し、対象者への在宅訪問などの標準化 (みなみ福寿園での高齢者訪問ルールの採用、お助け隊活動心得作成など) ・自治区高齢者夫婦世帯、ひとり暮らし登録者へのお助け隊活動案内チラシ配布 及び広報とよた配布時に自治区内回覧とボランティア会員の募集(4回/年) ・お助け隊会員への庭木剪定作業の基礎知識と基本技能の習得と じっくり傾聴チームによる「傾聴講座」に参加・ロールプレイ(1名)	
<b>課題</b> ・お助け隊のボランティア会員と高齢者対象者をABC各担当ブロック分けして、受け持ち担当制とする。 ・コロナ禍でボランティア会員間でお互いの情報共有の場づくりとして役員会6名での企画会議、各ブロックの活動情報をグループLINEで共有した。 ・9月度役員評議員会において、お助け隊活動を説明して、各種団体認定された。	
<b>今後の取組</b> ・自治区内高齢者やひとり暮らしの皆さんに対して、年間活動計画を作成してお困り事に対して寄り添い活動をする。 ・女性部ボランティアメンバーで心のケアとして、傾聴活動を実践する。 (今後も自治区で安心して暮らせる環境づくりを進める)	



## 活動の様子

お助け隊活動キックオフ (7/19)



Nさん宅周囲の草刈り・庭木枝伐採



さあ、御用聞きに出発 (7/10)



各 ABC ブロックでの困り事の確認



ｽｽﾞﾒﾊﾞﾁ 巣取り道具考案して  
除去作業 (5日間・大きさ 20c m)



現地で講師による剪定体験講座



## わくわく事業活動報告

<b>団体名</b> おしかも   ほたるの会	
<b>事業名</b> “蛍を養殖し、自然環境の大切さを学ぶ” 事業	
<b>会員数</b> 29 名	<b>主な活動場所</b> 鴛鴨町馬場川及び寿恵野小学校
<b>事業費(補助額)</b> 284,000円    (241,000円)	
<b>【主な使途】</b> 蛍の養殖に伴う、飼育容器等及び養殖池の整備経費など	
<b>事業目的</b> ▲自然発生していた蛍を再生するため、自然環境の保全を図り、地域の生活環境の啓発を図る ▲地域の小学校に設置してあるビオトープの整備と水生生物の保全を図る ▲蛍が自然発生する環境と同時に、矢作川水系の水生生物を展示し、川への関心を高める	
<b>主な活動内容</b> ▲蛍の養殖池の維持管理 ▲蛍のえさとなる「カワニナ」の養殖と馬場川の環境整備 ▲蛍の幼虫の水替え及び飛翔状況の観察（地域住民へのPR） ▲寿恵野小学校のビオトープの環境整備（自然を残しながら、樹木の伐採など）	
<b>活動の成果</b> ① 蛍の養殖を通じて、水辺の生物の生き方を学び、自然環境の大切さを学んだ ② 蛍の養殖池及び馬場川沿いの農道が地域住民の散歩コースとなり、多くの人が利用して蛍に関して意見交換ができた。	
<b>課題</b> ▲整備した当初は、湧き水が出ていたが、現在はほとんど出なく、幼虫の餌であるカワニナの生息が難しくなってきた。 ▲水量の確保を図る必要がある。 ▲後継者の育成	
<b>今後の取組（活動内容）</b> 1 鴛鴨地域の下水道整備等により、昨年同様、馬場川の水量が減り、水生生物が減少し、特に蛍のエサとなる「カワニナ」にも影響が表れてきていることから、水量の確保 2 馬場川に、水生生物が住みやすくなるよう、意図的に川底を凸凹に改良する方法、（適度に小石・中石・大石の自然石＝石灰石）配置する方法で、進めていく。 3 活動状況を、地域の皆さんへの周知により、後継者の勧誘	



## おしかもほたるの会活動報告



ほたるの郷 水替え（月1回）



馬場川の環境づくり カワニナの新殖



幼虫の放流



ビオトープの整備



ほたるの郷 水替え（月1回）



ホタルの鑑賞を観察する住民

**令和3年度 上郷地区・末野原地区  
わくわく事業 活動報告書**

**発行/豊田市 上郷支所**